会　議　録

会　　議　　名	平成２４年度第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　　務　　局	文化推進係　はけの森美術館		
開　催　日　時	平成２４年７月２４日（火）午後６時３０分から午後８時００分		
開　催　場　所	小金井市立はけの森美術館　２F会議室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長　上田郁子副会長　山村仁志委員　村澤　司委員 河合雅彦委員　鈴木茂哉委員		
欠　席　委　員			
事　務　局　員	学芸員　荒木和、神津瑛子 文化推進係　吉川まほろ はけの森美術館事務　山田耕太郎		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	０人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会　議　次　第	報告事項 １　展覧会（所蔵作品展　「夏の家、木陰のアトリエ」）の観覧 ２　事業報告等 所蔵作品展　「夏の家、木陰のアトリエ」について ３　協議事項 多目的講義室の運用方法等について ４　その他（次回運営委員会日程調整等）		

【鉄矢会長】　　では、平成２４年度第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催したいと思います。よろしくお願いします。

配付資料の確認をしたいと思います。次第が１枚。それから「多目的講義室の利用方法について」がホチキスどめで２枚ですね。それから、「東京都現代美術館」というものが、これは参考資料になってございますけれども、紙は２枚で４ページになりますが、それで配付物はよろしいでしょうか。

では、始めたいと思います。次第１です。展覧会（所蔵作品展「夏の家、木陰のアトリエ」）の観覧ということで、一応皆さんごらんいただいたと思うんですけれども、補足的に学芸員のほうから何かお話はありますか。「これは見ていただけましたか」とか、あとは皆さんのほうから「ここはどういう意味だったの」とか、何かもしありましたら。

【村澤委員】　　展示についてはともかく、広報関係なんですけれども、市報に６月１５日と７月１５日に出ていたようなんですが、広報としては一応それが主体としてということですか。

【神津学芸員】　　いえ、都内・近隣の美術館、博物館にはチラシを配布しております。小金井市内の広報としては市報が主になります。展覧会のお知らせと、あとは今日、皆さんにお渡しした「宿題応援！ワークシート」というワークシートを配っているよというお知らせで２回広報させていただきました。

【村澤委員】　　市の掲示板って、何かあるじゃないですか。ああいうところは掲示していないんですか。

【神津学芸員】　　なるべくできるようにしようとは思っているんですけれども。

【村澤委員】　　人手がないとか。

【神津学芸員】　　広報掲示板は事前に手続というか、申請をしていればいいのですが、チラシができるタイミングとかみ合わなかったり、早いもの勝ちなのでこちらがちょっとばたばたしていたりでできなかったりする場合があります。

【事務局（吉川）】　　３カ月前から予約ができまして、競争率が高くて、まずとれないんですね。

【神津学芸員】　　とれる場合は全域で掲示してもらっています。申請の要らない市民掲示板にはワークショップのお知らせ等鮮度の高い情報を掲示するようにしています。

【村澤委員】　　ちょっと個人的なところなんですけれども、６月１５日で７月の半ばですよね、たしか７月１８日でしたっけ。　１カ月前なので、ちょっと忘れてしまうかなと

いうところが気になったんですけれども。

【神津学芸員】　　ワークショップの募集をなるべく早く告知したほうが親切かなというねらいがあって、１カ月前にしています。

【村澤委員】　　わかりました。

【鉄矢会長】　　親子の夏休みの予定を、もう近くなので、そこを早めにお知らせしてあげたいとかいう話ですね。

【鉄矢会長】　　痛しかゆしなんですね。おっしゃるとおり、１カ月前だと忘れちゃうような。

【村澤委員】　　そうなんです。

【鉄矢会長】　　先生のところはどのぐらいでやっていますか。

【山村委員】　　やっぱり１カ月前が目安ですね、大体。

【村澤委員】　　近くの掲示板にでもあると、「ああ、そろそろ始まったな」と思うんですけれども。あと、好きな人だとパソコンでホームページを見てということになるとは思うんですが、また、ここの近所の方だと始まったなということでぶらっと行ってみるということになると思うんですが、市内でもちょっと遠いところは、行きたかったんだけれども気がついたら終わっていましたとかですね。できるかどうかは別なんですけれども、メルマガとか、そういうので案内してあげるともうちょっと、パソコンとかでも見やすいのかなと思うんですけれども、どんなもんなんでしょうかと。

【鉄矢会長】　　メールマガジンですね。ファンクラブにはメールマガジンとかね。あり得る話ですね、メールのアドレスで。

【荒木学芸員】　　そのあたりは、市の情報セキュリティーポリシーとのすり合わせがかなり必要になってきますので、我々だけでは決められないんです。それこそツイッターなども活用したいんですが、市の施設である以上は市の方針にまず準じないといけないということです。

【鉄矢会長】　　そうですね。市の方針としてどうだというのと、こちらの方針として、運営協議会としては、逆に言うとツイッターとかフェイスブックとか、メールマガジンとか、もっと身近なメディアであってもいいんじゃないのという声が挙がったという記録はあっていいわけですね。

【上田委員】　　すみません、ちょっと関連して。１カ月前にワークショップなんかの告知をしてあっという間に予約は埋まっちゃいますか。

【神津学芸員】　　企画によります。

【荒木学芸員】　　少し前までは電話での先着順にしていたんですが、それですと申込開始日を決めなくてはいけないこと、それまでに十分に周知をしなければいけない、あるいは申込開始の日に電話が殺到して業務に支障が出るということがあって……。

【神津学芸員】　　前回からファクスとＥメールと往復はがきでの応募に変えたんですね。そうすると、ワンテンポおくれて気づいた方も応募していただけるので。たくさんの人数を募集できるわけではないので応募者多数の場合は抽選で、実際に今回の２つあるワークショップのうち、１のほうは抽選が確実になっています。

【鉄矢会長】　　応募の締め切りがあって、でも、いっぱいにいっちゃったというのは、おっしゃったように広報してから結構すぐだったんですか。

【神津学芸員】　　市報が出てからわっと増えたというのはありますが、小金井市以外の都内の方からの応募はじわじわとチラシを配って、ちょっと落ちついてからという感じですね。市報だけに頼るとやっぱり集中してしまって、早い者勝ちだとそこでもう埋まってしまうので、今後もおそらくこういうふうに期間を設けて、なるべく早めに告知をして締め切りまでに応募してくださいという形をとるとは思いますが、この締め切りまでの時間とか日数は今から探っていきたいなというところです。

【上田委員】　　先ほど、夏休みでもあるし、子供の夏休みの予定ということですよねというお話が出たんですけれども、子供がいてワークショップに申し込んだことがある者としては、そんな先のことはわからないけどとにかく応募しておこうかみたいな感じで応募していました。あまり先のことだと、やはり応募するほうも実はあまりよくわからないというところがあります。うまい考えがあるわけじゃないんですけれども、そういう面もありました。

【神津学芸員】　　はい、ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　ユーザーの大変貴重なご意見。

　すみません、前後します。次第に入る前に、前回所用で来られなかった指導室長、ごあいさつを。

【河合委員】　　初めまして。教育委員会指導室長の河合雅彦と申します。４月よりこちらに着任いたしました。前回は、急な所用がありまして失礼させていただきました。今日から参加させていただいて、まだまだわからないことは多いんですが、少しずつなれながらまた少しでも力になれたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。

【鉄矢会長】　先生は、ここに来る前は校長先生を……。

【河合委員】　西東京市の校長をやっていました。よろしくお願いします。

【鉄矢会長】　そうですか。いずれは学校のことも今後ご指導……。

【河合委員】　まだ市内のことが、１学期しかたっていないのですべてつかみ切れない部分があるんですが、どうぞよろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　一応、全小学校との鑑賞教室は昨年やっております。

【河合委員】　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　では、もう１回戻ります。展覧会へのご意見等ありましたらと思うんですけれども。私はあの白いテーブルが、あそこに座って、お隣でつくったんですけれども、つくれないとか思って。（笑）ものすごい高いですよね、あれ。

【神津学芸員】　お子さまはかなりくつろいで、あそこでいろいろ書き物をされたりはしております。

【鉄矢会長】　そうですか。みんなあんな高いのに、ひざ立ちでやるのかな。

【神津学芸員】　正座だったり、あぐらをかいたりして。

【鉄矢会長】　あぐらをかいたら結構高かった。

【山村委員】　ひざ立ちでちょうどいいぐらいだった。

【鉄矢会長】　うん、ひざ立ち……。

【神津学芸員】　そうでしたか。

【鉄矢会長】　ちょっと高いかなと思いますけれども、特に折り紙をやるときに。

【鉄矢会長】　あ、高いなと思ったぐらいです。小さなことです。

　では、展覧会のほうはよろしいですか。

　では、次第の２、事業報告等ということで、事務局のほうから。

【神津学芸員】　こちらも先ほどの展覧会についてのご質問等にかぶるんですけれども、無事に「夏の家、木陰のアトリエ」がオープンいたしまして１週間がたちました。天気に左右される立地ですので、暑過ぎても、雨が降り過ぎても足が遠のくようなところがあるんですけれども、一応今のところの感触としては、いつもよりは小中学生が多いかなとかと。

　あと、本日は火曜日で、スケッチ曜日として展示室でのスケッチをどうぞとお声がけしているんですけれども、午前中はいなかったんですが、午後は３兄弟が楽しそうに絵をかいていました。子供向けというわけではなく、どなたでもという展覧会ですので、これか

ら来館者が増えるといいなと思っております。

企画としては、ワークショップが８月２５日にあるのと、このワークシートは、ご希望の方は大人の方でもお渡ししようと考えています。

【鉄矢会長】　これは、ワークシートの「W」なんですよね。

【神津学芸員】　はい、そうです。

【山村委員】　今は、１日平均どれぐらいですか。

【荒木学芸員】　天候によって幅が大きいです。

【山村委員】　平均１０人ぐらい？

【荒木学芸員】　そうですね。

【事務局（山田）】　従来の所蔵作品展ですと、平日１０人来ていただければ結構多いなという、ありがたいなという感じだったんですが、最近は前回の所蔵作品展からかなりそれを超えるような状況にはなってはきております。

【神津学芸員】　とりあえずここに来るまでに時間がかかってしまうので、バスのご案内等を丁寧にしたいなと思っているんですけれども。今までも課題として話が出ていますが、バスをおりてからの看板等、現実的に考えないとなと思っているところです。

【村澤委員】　来られている方は市民の方ですか。遠い方？

【神津学芸員】　ばらばらですね。そんなにわざわざ、どこから来ましたかということをお声がけしたり、アンケートを必ず書いてくださるわけではないんですけれども、初日だか２日目だかに来てくださった兄弟は新宿から来ましたと言っていて、来てからスケッチがあることを知って火曜日にまた来ますと言って帰っていったりして、楽しみにしているんですけれども、多分夏休み期間だからなのかもしれないですが、市内よりも、今は市外のほうが多いような気がします。

【村澤委員】　そういう方は何を見てここを知ったんでしょうか。

【神津学芸員】　ほかの美術館でのチラシを見てというのが。

【荒木学芸員】　あとはインターネットですね。小金井市の公式サイトだけではなく、美術情報のウェブサイトにもなるべく発信していますので。

【神津学芸員】　あとはフリーペーパーなど、小さい欄ですけれども、無料で載せられるところには載せてもらっています。第３回の運営協議会で終了の報告をさせていただくと思いますので、事業報告としてはこれぐらいなのかなと思うんですけれども、他に何かご質問等ありますか。

【山村委員】　学校のほうにはこの展覧会はどんな周知をしているんですか。

【神津学芸員】　　校長先生あてと図工の先生あてにチラシを送って、配布してくださいとお願いしています。あとはもう鑑賞教室のための打ち合わせが始まっているので、小学校だけですけれども、先生方に今回の展覧会はこんなテーマで小中学生は無料なのでなどの説明を口頭で伝えています。

学校では、わりとポスターを貼ってくれているので、そのポスターを見てうちに来ると、「学校で見た」というような声が聞こえたりもします。

【山村委員】　　ポスターは１枚ずつ？

【神津学芸員】　　はい、１枚ずつです。

【山村委員】　　チラシは何枚ずつぐらい配っています？

【神津学芸員】　　チラシは１００枚なので、全く人数分はないんですけれども。

【山村委員】　　各校１００枚？

【神津学芸員】　　はい。各校に１００枚です。図工室に置いて配ってねという形にしています。

【上田委員】　　すみません、その各校というのは市内の小中学校もですか。

【神津学芸員】　　はい。市立小中学校と、あとは私立の学校もですね。高校、専門学校にも送るところは送っています。

【上田委員】　　近隣の市とかはどうなっているんでしょうか。

【神津学芸員】　　近隣の市も、一応隣接している市の図書館・公民館に向けては送ってはいるんですけれども、部数は、企画展の場合と所蔵展の場合ではちょっと差を出しています。必ずしも近隣の市の各施設に全部送るというわけではなくて、そのときどきの全体の部数の関係で絞ったりはしています。

【上田委員】　　学校には特に送ってはいない？

【神津学芸員】　　近隣の市の学校までは、ちょっとカバーはできていません。

【上田委員】　　わかりました。

【山村委員】　　これは校長会とかには報告するんですか。

【河合委員】　　私も、詳しくはつかんでいないんですが、事前に来ていただいたりすると校長会の前にご案内をさせていただくことができます。ですから、そういう機会がもしもいただければ、できると思います。

【山村委員】　　今はやっていないんですか。

【河合委員】　　ちょっと私もそのことは……。

【神津学芸員】　　はい。鑑賞教室に関しては本年も行いたいと思っておりますというか、こういう予定ですといったことを美術館から行く場合もあれば、図工の先生から校長会に向けて発信してくれる場合もあるんですけれども、各展覧会ごとにということは、今はやっていないです。

【山村委員】　　今はやっていない？

【神津学芸員】　　はい。

【山村委員】　　わかりました。

【村澤委員】　　アンケートとかはやっぱりとらないんですかね。

【神津学芸員】　　とってはいますけれども、自由意思になります。

【村澤委員】　　ああ、自由意思。せめて市内か市外かぐらいわかると。そうすると、やっぱり市の税金を使っているから、市民の方に来てほしいなとは思うんですけれども。

【神津学芸員】　　アンケートの回収率を上げる効果がのぞめるのかなと思いますが、ほかの美術館で、抽選でチケットが当たりますというところもありますね。そういったことができると、もっと書いてくれるかなという気持ちはありますが、今は完全に自由なので、書く人は書くとなっています。何かイベントをやったときには、こちらからお声がけしてできるだけ記録をとるようにしています。

【鉄矢会長】　　私からちょっと。こことかぶったんですね。「ハテナを探そう」と、「このマークを探そう」がずっと私、これ、最初一瞬読んじゃったんですよ。だからこれがハテナマークなのかなと思って、これは何か、わからないマーク、ここにハテナマーク、そのすぐ下にハテナマークを探そうと書いてある。

【神津学芸員】　　ハテナマークじゃなくて、「ハテナを探そう」なんですけど、申しわけありません。不思議に思うことを探そうという意味でした。ちょっとわかりづらくてすみません。

【山村委員】　　あ、そういうことなんだ。

【鉄矢会長】　　ここは多分、ちょっと工夫のしどころかなと思って。まだこのワークシートマークというのが定着していないなら、ちょっと小学生にワークシートの「ワ」が「W」なんて、くっつかないと思うんですね。

【神津学芸員】　　はい、そうですね。

【鉄矢会長】　　何かそこのところが、これ、定着しているんだったらしようがないなと

思うんですけれども。

【神津学芸員】　今回からですのでまだ定着していません。

【鉄矢会長】　今後こういう、何かワークシートマークみたいなものとか、何かを探そう、「ハテナを探そう」の後にハテナマークと書いてあったので、両方がダブっちゃって、何かそれが、小さなことなんですけれども、どうも気になって。このマークを探して自分がひっかかったので、このマークは何でWなんだろうとずっと……。

【神津学芸員】　カタカナのワにしたほうがわかりやすかったかもしれないですね。受付で、マークについてもう少し触れるようにします。

【鉄矢会長】　もしかして、ひっかかるのは私だけかもしれません。ちょっと見て、ちょっと観察してみて。

【神津学芸員】　はい。

【鉄矢会長】　観察の結果だと思います。私は大人なのでわかるんですけど。

　では、次第の２が終わったということで、８月２５日ワークショップ、興味のある方は、来れば見ることはできるんですね。

【神津学芸員】　はい。

【鉄矢会長】　立ち見ですよね。

【神津学芸員】　はい。

【鉄矢会長】　では３番目、協議。協議の資料の説明のほうをまずしていただいて協議をスタートしたいと思います。

【事務局（吉川）】　では、資料の説明をさせていただきます。前回お話をしましたけれども、年末から工事が入りまして、いよいよ多目的講義室ができるんですけれども、その利用の方法について運営協議会の中でもんでいただいて、アイデアとか工夫とかをしていけたらいいかなと思いまして、今、ここに書きましたのは、現状を知っていただくということと、美術館としてどのような扱い方をしていきたいのかということを、学芸のほうからお話をしてもらえばいいかと思いまして、この資料をつくりました。

　ポイントが３点ございまして、まず、今、申し上げましたけれども、美術館としてどのような使い方をしていきたいのか。それから２点目として、せっかくできますので、場所を貸して使用料を徴収したらどうかということも考えられるかと思うのですが、ここはそういうことをやったことがございませんので、どんな場合に使用料を徴収したらいいのかということと、そのためにこの東京都の現代美術館と熊本市の現代美術館の貸し出しの方

法みたいな資料はつけたんですけれども、駅前に市民交流センターができましたが、あそこのような場所貸しの方法ではなくて、美術館ならではということはどういうふうにしたらいいのかということを少し意見を出していただければと思うのが２点目です。

３点目なんですけれども、多目的講義室ができますと結構大きなワークショップ、今は場所があまりないので短日というか、１日限りで非常に小さなワークショップしかできないんですけれども、場所ができるということで複数日使える大きなワークショップがやれた場合にある程度受講料を徴収したらどうかと思いますので、そういう場合の受講料の徴収についてというのはどうしたらいいのかというところもお話ししていただければと思います。

２ページ目以降の現状と問題点及び今後の展望というのは、これは私どもが予算要求をしたときに、現状と問題点と改善・発展することというのを３つにまとめましたので、これを見ていただけると一番わかりやすいのではないかということで資料的につけております。今回、１回だけではなくて、今日はもういろいろな意見をざっくばらんに言っていただく場になればと思いまして、今後、この３本について協議をしていければよろしいかと思っております。では、よろしくお願いします。

あと、参考の博物館法は、こういう根拠となる事業としてはこのようなことではないかというものを学芸員から出してもらいましたので、それも参考として添付してあります。

以上です。

【鉄矢会長】　すみません、博物館法の博物館の事業第三条の七項……、あ、すべてなのか。これは抜粋が、その略が入っているんですね。

【荒木学芸員】　はい。

【鉄矢会長】　三項が研究室とか実験室を設置して、資料に関する講演会、講習会。かかわる部分をピックアップしたということですね。

２枚目の３ページですか、多目的講義室整備に関する現状と問題点及び今後の展望というのは、もう、現状というのは、これは何を例に、今、こちらはないですよね。多目的講義室は。

【事務局（吉川）】　あ、ない現状を。

【鉄矢会長】　ああ、ない現状ね。

【事務局（吉川）】　はい。ない現状でございます。

【神津学芸員】　空の展示室を使ってのワークショップでしたら連続してですとか、そ

れなりの人数でやっているので、そういう現状をふまえての展望をという部分もあると思います。

【山村委員】　　ということは、今度は専用の部屋ができるから、これの分析は当たらないということになるわけですか？

【鉄矢会長】　　ないからあると言って、あるけどどういう問題があるかじゃなくて。

【山村委員】　　多目的講義室整備に関する現状と問題点及び今後の展望というのは、今度、年末、来年には専門の部屋ができるんだよね。

【事務局（吉川）】　　はい、できます。

【山村委員】　　ということは、これは今の現状？

【事務局（吉川）】　　今の現状です。

【山村委員】　　これは、今度できてからのことを今、話しているということですか？

【事務局（吉川）】　　そうです。すみません。一応参考までに、現状こんなので、できればこういう未来が開けるよということで考えてみましたという、資料的におつけしたものになります。

【荒木学芸員】　　それが、改善、発展することというのがどこまで実現できるかわからないですけれども、でも、ここまでは実現してほしい、すべきだということを委員の皆様から出していただければと思っております。

【山村委員】　　例えば、単純にちょっと今言っていっていいですか。２０人入るキャパが５０人になればオーケーというのは、５０人になるんですか。

【荒木学芸員】　　今予定している図面上ですと、いす席で、ちょっと詰めてで５０までは入り切るという計算になっています。

【山村委員】　　これはオーケー。それからプロジェクターとかは、もう今回使えますよね。

【荒木学芸員】　　現在当館にないので、それが購入できるかどうかということも含まれております。

【山村委員】　　あ、導入できるかどうかまだわからないんですね。

【荒木学芸員】　　はい。できれば優先度を上げたいです。

【山村委員】　　そうですね。場所ができるわけだから、会期中でも講座はできますよね。それから、児童の待機場所も何とかなるの？

【荒木学芸員】　　そうですね。今は玄関先でやっているので、季節によってはおそらく

虫、蚊がいっぱいいて気が散ってしまったり、あるいは雨のときなどは結構大変ですので。

【山村委員】　今後、できてからの待機場所はあるということ？

【荒木学芸員】　はい。

【山村委員】　それから裏面にいって、水場はとりあえずないんですよね。

【事務局（吉川）】　水場は設置します。現状ないということです。

【山村委員】　じゃ、これもオーケーか。それから手洗いもできますよね。受講料を徴収することはできますよね、これもやろうと思えば。

【事務局（吉川）】　やろうと思えば。

【山村委員】　それから大学の可能性もある。会場使用料の徴収もできますね。うん、わかりました。ということは、現状は解決するわけだ。

【荒木学芸員】　希望通りにすべて進めば。

【山村委員】　プロジェクター以外は。プロジェクターはでも、そんなに高いものじゃないですから。

【荒木学芸員】　そうなんですけど、ここでは。

【事務局（吉川）】　備品を買うのがとても大変なんです。

【山村委員】　今、安いので数万円ぐらいで。

【荒木学芸員】　ええ。多分、１０万足らずで展示にも使えるようなのは買えるはずですけれども、ちょっと備品についてはかなり。

【事務局（吉川）】　備品は厳しいです。

【山村委員】　備品、今、うちは２万円以上なんですが、こっちは１万円。

【事務局（吉川）】　はい。

【鉄矢会長】　あれですか、天井設置とか、つくりつけても備品ですか。

【神津学芸員】　つくりつけてしまうと内容の幅が狭まるので、できれば別のほうがいいです。

【鉄矢会長】　移動できるほうがいいんですね。

【荒木学芸員】　そうですね。どういう使い方をするかがわからない。

【山村委員】　ソニーか何かのは数万円でもう、ポータブルで使いやすいやつとかあるよね。市で出ないんだったら寄附してもらうというのもいいのかなという気も。個人的に、５，０００円出していいですよ。例えば１０人ぐらい５，０００円出せば５万円だから。

【鈴木委員】　工事費が予算措置されていて、最低限の備品ですね、机とかいすとかい

うことで一定の予算措置はされているんですけれども、いすと机ぐらいだっけ。

【事務局（吉川）】　　いや、でも一応プロジェクターも優先度は上のほうに入っているんです。

【河合委員】　　備品込みで、全部で幾らぐらい使えるんですか。

【事務局（吉川）】　　えーと、ごめんなさい。今は予算書がないんですけれども、２４０万ぐらいありましたか。だけど……。

【荒木学芸員】　　全部込みですね。

【事務局（吉川）】　　全部込み。

【鈴木委員】　　工事費１，７００万ぐらいです。

【事務局（吉川）】　　工事費１，７００万で、備品が……。

【事務局（山田）】　　備品トータルで２４３万です。

【事務局（吉川）】　　要求時から７０％ぐらいに切られちゃったので、厳しいことは厳しいんです。その中で優先度の高いものから買っていきますけど。

【山村委員】　　２４３万で椅子とか机とか。

【事務局（吉川）】　　プロジェクターとか。

【荒木学芸員】　　ビデオカメラもデジカメもパソコンもないので、ほんとうに全部最初からになるので、そうするとちょっと厳しいかなと。

【村澤委員】　　それは、来年以降はまた追加でということは可能なんですか。

【事務局（吉川）】　　ないですね。

【村澤委員】　　あ、追加はできない？

【事務局（吉川）】　　もう二度と、多分ないと思います。この機会を逃したら、多分備品は入りません。

【山村委員】　　備品は入らないんです、初年度以外。初年度だけがチャンスだから。

【事務局（吉川）】　　ここがチャンスなんです。チャンスだったんですけれども、結構予算を切られちゃったので。３５０万ぐらい要求したんですけど。

【山村委員】　　それが２４０万？

【事務局（吉川）】　　３０％ぐらい切られちゃったので。

【上田委員】　　プロジェクターって、もしかすると投影機よりもむしろ映される側、スクリーンのほうが問題だったりしませんか。設置場所というか。

【荒木学芸員】　　スクリーンはモバイルスクリーンにする予定で、それこそプロジェク

ターと同じでプログラムの内容によってどっちの向きで話をするかとか、あるいは展示室で使用することもあり得るので、持ち運びができるものを前提に考えています。

【上田委員】　　そのプロジェクターとスクリーンをセットで、５万円とかって無理ですよね。

【山村委員】　　多分５万円、７万円でも、何とか。

【上田委員】　　セットでもないですか。

【事務局（吉川）】　　多分、買えると思いますよ。机、椅子がとりあえず一番最優先なので。

【山村委員】　　まあ、そうですよね。

【荒木学芸員】　　それ以外の棚類などが何も考えられていないので、こまごました設備がちょっと難しいです。

【山村委員】　　今はコンピューターとプロジェクターで、すごく使うんですよ。いろいろなことで､講座とかワークショップはもうパワーポイントで大体みんなやっちゃうので。いろいろな講師が来てもＵＳＢを持ってきてパワーポイントに差してちょっと説明してから作業に入るとか、いろいろな使い方ができるので、必需品です。

【荒木学芸員】　　これまでは、市役所から一々催しごとに借りに行っていまして、ここから市役所まで坂を往復しながら運んでいたという状況です。

【村澤委員】　　じゃあ買えなかったとしても市役所から。

【事務局（吉川）】　　いやでも、それは買いますよ。

【荒木学芸員】　　市役所のほうで、結構立て込んでいる時期があったりすると、こちらがスケジュールも決めているのに、市役所のほうの予約がいっぱいだったとなると困りますので。

【【鉄矢会長】　　それこそ学校に出向して、ちょっと美術のお話するよなんていう共同研究みたいな何かで、違う予算でとってくるとか。

【河合委員】　　それは少し難しい。

【鉄矢会長】　　学校にもプロジェクターはありますもんね。

【山村委員】　　学校はみんな持っていますよ、大体どこも。

【鉄矢会長】　　頑張って獲得してください。応援しています。

それで、多目的講義室という名前は決まったんですか。名前もまだ決まっていない？

【事務局（吉川）】　　決まってないですね。

【荒木学芸員】　以前は、ワークショップ＆レクチャールームという長い仮称がついていたこともありました。まだこれでいこうというのは、以前の運営協議会でも固定はしていなかったと思います。

【鉄矢会長】　多分これが多目的講義室という名前である限り、美術館自身も何に使っていいかわからないという意図が出ているような気がして、もし自分たちの中でこう使いたいんだというのが、我々も含めてなんですが、こう使いたい、レクチャールームと言っていれば、基本的にここはレクチャーになるんだという、使ってほしいという意識が出てくるんだと思うんですね。コミュニケーションルームと言ったらコミュニケーション、アートコミュニケーションルームといったら芸術のコミュニケーションをしなきゃいけないんだとか、何か部屋に意思が出るといいですね。

【神津学芸員】　あまり意思をつけずに、いろいろなことに使いたいということで多目的ルームという、仮の呼び方に前回まで落ちついていたような気がします。ワークショッププルームだと、ワークショップしかしないのかというような話が出て、講義にも使うし、いろいろな講座もできるしというようなことで、じゃあ多目的に使う部屋だねという形になったと思います。

【山村委員】　ちょっといいですか。前に薩摩さんの提案の中に、サロンとしてこの美術館、地域の中のアートサロンというか、そういう形としてという提案があったんですけれども、今回は多目的レクチャールームか多目的講義室かは置いておいて、その機能としては、今、事務局のほうで考えていらっしゃるのは、サロン的な部分というのはどういうふうなお考えなんですか。

【神津学芸員】　むしろサロンのようになったらいいなというのは、この部屋、今会議で使っているここがそういうふうになるといいなというような話はよく出ています。ここが公の、だれでも入ることができて、休憩したり本を読んだりできるようなサロンの場にここがなって、多目的ルームに関してはきちんと、何をやるというような目的があって使う部屋という役割のほうがいいのかなと思っています。

【鉄矢会長】　世田谷が熱中症対策でやっていますね、「お休み処」。熱中症対策でアートサロンという、今、木陰のアートサロンといって小金井市は開放しておりますといったら、そこだけもう、アートサロンだけ独立して始まっちゃうんじゃないですか。

【荒木学芸員】　展示室と別に、無料のパブリックスペースとしてとれる場所がないというのがこの構造上の実情です。展示室前でチケットを確認しているというのでしたら可

能ですけれども……。

【鉄矢会長】　無料で出しているんじゃない、有料で。有料でここだけはアートサロンで避暑ができる、いいタイトルですよね、木陰のアトリエ。

【山村委員】　ここは今の状況では１階と２階の展示室がつながっているからチケットをもぎって、ここを今は利用しているわけですか。

【荒木学芸員】　ここは今、基本的に非公開です。

【山村委員】　ああ、そうなの。

【神津学芸員】　イベントで使う時以外では、エレベーターをご利用のお客様がお通りになる場合がありますが、職員が付きそいます。

【鉄矢会長】　ここはまだ運用していないということですね。

【山村委員】　そうか。今後は、その辺の考え方は、今の無料、有料でいけば、展示室との兼ね合いもあるんですね。

【鉄矢会長】　有料でサロンにはしたいということですね。

【荒木学芸員】　そうですね、入館者。

【山村委員】　チケットを買って入館する人用のサロンにする。

【荒木学芸員】　今度の改修で、できるかもまだ未確定ですけれども、要するに、ここを公開していない大きな理由の一つには、監視カメラがない点があります。いろいろなものや資料がありますので、そういったものの安全を考えてクローズにしていたんです。

【事務局（吉川）】　監視カメラはつきますよ。

【荒木学芸員】　そうしたらここをオープンにしてご利用いただけますし、一方で、１階から展示室へ入って、一番奥にエレベーターホールへの入り口がありますね。展覧会によってはそこから上がって２階にという動線のつくり方もできるという、そういう広がりもあるかなと。今は車いすの方など１階の展示室を見て、「２階に行きたいんですけど」と受付までいらして、また展示室を通ってここを上がってという、非常に面倒な状況になっている。お客様の利便性も考えると、ここを今よりはもっと開放できるといいなと考えています。

【神津学芸員】　現状でここが、お客様によっては展示を見るための通り道なんです。ですので、ここで開館中にイベントをやる場合はエレベーターをお使いのお客様が来る場合は中断をしたり協力していただきますということをご案内した上でやっています。元々そういう通路の役割のある部屋だったら入館者の方はだれでもここで、ちょっとくつろい

だりできるようなサロンの意味があると、動線としてもいいのかなというような考えです。

【山村委員】　　まあ、だからサロンという考え方ですね。

【神津学芸員】　　はい。

【山村委員】　　基本的には有料空間の中の休憩室となるよね。無料じゃないから、やっぱり展覧会、観覧者のための休憩コーナー。

【神津学芸員】　　無料で利用できる図書スペースというようなものではなくなります。受付が１カ所で集中しているので。

【河合委員】　　すみません、飲食はできるんですか。サロンとなった場合。

【荒木学芸員】　　清掃がちゃんとできるか。

【神津学芸員】　　そうですね。どうなっていくか、これからだと思いますので、何かご意見を伺えればと思いますけれども。

【河合委員】　　いや、サロンというなら、休憩するだけの場所で、これだけの予算を残すのかなとちょっと今思ったんです。先ほど、私も、今日３回目なんですけれども、今まで来ていないものですから、どういう話があってこういうふうになったのかわからないのに勝手にしゃべって申しわけないんですが、ずっと見させていただいて、私の美術館に関する思いとしては、やっぱり、ああいう作品があって、そのサイドか何かにいすがあったりして、ちょっと休める場所があってもいいかななんて思ったりしたんです。例えばソファがあって、じゃあ、何をするのかと、これは何か作業をする場所があるならいいんですが、そのために2階のこんなに広い部屋はもったいないなと私は思ったりしました。下にあれだけいい部屋があって、ちょっと休憩をするなら違う場所が必要かなと。だけど、もっと何か違う目的があるなら、この部屋をサロンということで。

【鉄矢会長】　　だから、私の解釈のサロンは、もう少し何かを生み出すための話ができていくサロンという……。

【河合委員】　　なるほど。そうしたら机があって……。

【鉄矢会長】　　だから、机があったり。

【河合委員】　　打ち合わせができるような、そういうサロンにしていきたいと。

【鉄矢会長】　　はい。打ち合わせをするというか、目的があれば打ち合わせになるんでしょうけれども、市民の皆様が、こういうことをやっているんだという自己紹介をあるときはやっているかもしれないし、じゃあ、こういうことをどこかほかで、市民性のある、こういうのだったらやりましょうよとか、いろいろな情報交換をしたりする場としてのサ

ロンという、ほんとうに社交場に近い、アート社交場みたいなものが、できるかどうかわからない、でも、そういう……。

【河合委員】　ただ、有料なんですよね。

【鉄矢会長】　はい。

【河合委員】　お金を払っている人しか、限定した人しか入ってこれないんですよね。

【神津学芸員】　今、２階展示室でごらんいただけるようになっている資料類など中村研一の画集など書籍をゆっくり読むスペースとして……。

【鉄矢会長】　図書室みたいな部分という……。

【神津学芸員】　図書室とまではいけないんですけれども。図書コーナーも含めたようなサロンがあるといいなという要望をいただいたりもしています。２階の展示室はやっぱり展示室なので、暗かったり、ずっといると寒かったりするとかもありますので。ただ、そういったスペースになると、ますます飲食はどうしようかとか、そういった悩みが出てくるなとは思います。あまり、単なる休憩室ではなくて、美術館の中に含まれているサロンという役割をはっきりさせてたい。

【鉄矢会長】　休憩室というから、それは間違えた話になると思うんです。休憩室ではないんだと思うんですね。

【河合委員】　打ち合わせの場。

【鉄矢会長】　打ち合わせとか、打ち合わせというのと、私のイメージしているのと違います。生み出すための会話をしているという……。

【神津学芸員】　輪が広がっていくような場所ということでしょうか。

【山村委員】　であれば、有料だとまず無理ですね。

【鉄矢会長】　無理ですか。

【山村委員】　毎回２００円払うというのは……。で、何回も来るという人は……。

【鉄矢会長】　定期券はないの。定期券というか。

【荒木学芸員】　ないんです。友の会などはないです。

【鉄矢会長】　ああ。友の会とかはこれからなんだと思うんです。

【山村委員】　今、だから、薩摩さんのこれには、アートサロンをお見せすることで美術館に市民が気軽に来れて、将来的には友の会に発展すると、そういうことですよ。

【鉄矢会長】　両輪でしょうね。そういう入る仕組みと。

【山村委員】　　例えば武蔵野プレイスといって、武蔵野市が駅前のところに複合的な交流施設をつくっているのは、１階でコーヒーが飲めて、簡単な食事ができて、図書館の本が自由に読めて、しゃべりながら本を読んでというような、しかも、あれは駅前ですよ。あれぐらいじゃないと、サロンみたいな雰囲気にならないですよね。

【村澤委員】　　多分、駅前だからできるんじゃないですか。ここはちょっと交通の便も悪いし、駐車場もないですし、有料にしてまでお客さん来るかなと思うんですけど。

【事務局（吉川）】　　初めの一歩としては、とりあえず来館してくださった方が、せっかく作品を見た感想なんかを、何人か一緒に来た方たちだけでもいいですから、ここにちょっと座って画集なんかをめくりながらお話ししてくださるようなスペースになれれば、まず最初の一歩としてはいいかなと私どもは思うんですけれども、そこからどう発展させるかですよね。

【山村委員】　　現実的には、見知らぬ人と話さないでしょう、普通。

【事務局（吉川）】　　だから一緒に、２人とか、３人とか、ご家族で来た方たちが、ちょっとここでおしゃべりできれば、それはそれでいいかなと私どもは思うのですけれども。

【鉄矢会長】　　多分、最初から設計すると、こういうスペースはとれないと思うんです。だけど、もともと住宅だったというのから生まれて、この空間をどう使うのかというところのアイデアをひねり出している中で、やりながら、失敗しても修正がきくようにしていけばいいんだと思う。だから、図書室とか資料室みたいに使ってみて、まずいと思ったらまた頭絞って考えたり、最初は、多分、飲食無理と言っておいても、要望があったりしたときにどこを緩めるかとか、そうやって、できた建物の中にアジャストしてくる部分はありますよね。このアジャストしている部分が、多分、工夫の見せどころなんだと思うんです。ここは昼間すごい景観……。

【河合委員】　　いいですよね。

【鉄矢会長】　　野川のいいところが見えますから、向かい合っていくサロンではないかもしれないですね。ここに長いソファがあって、こっち見てみんな違う本を読んでいて、でも同じ空気感を、こう……。

【神津学芸員】　　おもしろいですね。

【鉄矢会長】　　同じ空気感の中だから、鳥がバサッと飛んで、「今見ました？」と隣の人としゃべるかもしれない。でも、そんなことの中から何が生まれるのか、まだ未知数だし、「それがほんとうに市民サービスなの？」と言われると、普通は市民サービスだと思わな

いに近いものかもしれない。でも、ほんとうにここの美術館があって、この空間があることをどういうふうに有効にするのか、ここを、じゃあ、場所がもったいないから書棚をいっぱい入れて、本をいっぱい、美術資料を集めて図書館にしましょうよと、それがいいかといったらそんなことはないと思うんですね。だから、そういうことを、検討しながらできたらいいなと私は思っています。

議題は戻りまして、サロンじゃなくて、多目的講義室の話をしなくてはなんですよね。この中で、僕、不可が想定されるもの、個人の作品展示会がありますね。個人の人なんですけれども、ワークショッパーの人たちはどうするんですか。アーティストという中でのワークショッパーみたいな、ワークショップを専門的にいろいろな活動をしている人というのは、これは個人の作品として……。

【荒木学芸員】　場合によっては、逆に当館との共催とかで組める場合は、共催とか後援という形で組むというのはあり得ると思います。

【事務局（吉川）】　鉄矢先生と同じことを想定してこれを書いたんです。というのは、非常に、作品、自分の描いたものとかつくったものを展示したいという方は、市内にものすごくいっぱいいらっしゃいまして、上の交流センターのギャラリーがだめなら、じゃあ、ここだみたいになって来られてしまうのも、美術館としてはちょっと難しいのかなということが考えられたので。

【鉄矢会長】　市主催以外のワークショップは不可なんだ。そうですね。

【事務局（吉川）】　これも、今、荒木が話をすると思うんですけれども、どうかなというところで。

【荒木学芸員】　ほかの、既に同じように施設貸し出しをしている館の例を見ても、個人は全くだめとしている場合、あるいは、個人あるいは市民グループ可としていたりと様々です。グループだとまた変わってきますね、個人でも、あくまで使用料を払って美術館のイベントではないということを明示するなら受け入れるかどうか。　。

【鉄矢会長】　科学技術館が、今どこかの塾と一緒に、栄光ゼミナールだったかな、栄光ゼミナールと科学技術館をバッテンで、一緒にタイアップしてやっていますよというふりをしながら、科学技術館の中で理科の英才教育をやっているのを見て、これはいいのかなと思ったことがあるんです。だから、貸し出しているということは、それは協力しているという格好で。

【荒木学芸員】　科学技術館は民間ですからね。

【鉄矢会長】　　あ、科学技術館、そうなんですか。ああ、じゃあ、科学博物館だったかな、どっちかな。ちょっと……。

【荒木学芸員】　　科学博物館は独立行政法人になったので、そちらもありえます。

【鉄矢会長】　　何か場所貸しをしていたんですよ。それで、いいのかなと思って、そんな。美術館の中でやっていて美術館と一切関係ありませんって、めちゃくちゃ難しい表現だと思います。

【荒木学芸員】　　かなり、そうですね。会場は美術館の何とか室ですというだけで誤解をされないでやっていけるのかどうか、それは１つの難しいところです。

【鉄矢会長】　　例えば、これ、ずっと出ていますけれども、不可が想定されるもの、営利目的事業と書いてありますけれども、非営利団体、はやりのＮＰＯさん、アートＮＰＯさんが、アート系に寄与するようなワークショップをやるというのも、これは個人的ではないよという話ですよね。これはオーケーになるんでしょうか。

【事務局（吉川）】　　やっぱり、その上の施設の活用のところに書いてある、個別案件ごとに協議することが必要であるというところが生きてくるのかなという気がするんですよね。

【鉄矢会長】　　学芸大のアートギャラリーの使用の方針なんですけれども、一応は、多分、学芸大の学生及び教員と、それに関する者がやるのと、運営委員会をつくって、その運営委員会に企画書を出してというのと、もともと指針の中で、学芸大の研究とか何かに関するものを外に発信するとか、それに対する、ふさわしいものみたいな話を書いて、それは運営委員会で許可を出す。１週間以内に許可を出す、オーケーのものはというような話で、やっぱりあるルールだけの１枚ではなくて、それこそ学芸スタッフと館長の３名か何かで一応話し合って、自分たちの美術館にふさわしいかどうかというような、その許可がおりた、おりないというのと、そこでおろさない理由は自分たちでちゃんと考えて、だめなものはだめというふうなルールをつくっておかないと、ここに書いてあるという明文化したものだけぐらいだと、アーティストの方々はみんな裏をかいてきますので、売りたくてしようがないですから､それも美術館の中で活動したということはいいことですから、で、迷惑もかけてないぞと思っているけれども、それがうまく合っていない。それとも、この美術館はそうやって頑張るアーティストを応援していくんだというような。

【神津学芸員】　　応援はしていきたいですけれども。

【荒木学芸員】　　それはそれでちゃんとプログラムとしてやることであって。

【神津学芸員】　　個人の作品展示会に関しては、展示スペースではそもそもないので、きちんと理由があってＮＧであると言える。もちろんワークショップでやったものを展示できるような仕組みにはするけれども、そもそも展示のための部屋ではないので。ワークショップをどれぐらい稼働するかですけれども、要望があったので協議をします、許可を出すなりお断りするなりで、理由を出しますという、この多目的ルームの担当の人員というか、部署になるのか、そういった運営についてどういうふうに決まるというか、設置されるのかがちょっとわからない。仮にたくさん稼働したとして、現在の人員や体制で、学芸と館長とで協議するということは、難しいのではないかと思います。今、実際に稼働したときにだれがどういう動きをするのかというのが、こちらは全くわからない。

【山村委員】　　府中市美術館の場合は、市民ギャラリーはあるんですけれども、こういう創作室の貸し出しはしていないんです。市民ギャラリーの運営だけでも結構いろいろなケースがあって、物を売りたいとか、音を出したいとか、ダンスを踊りたいとか、いろいろなことを言ってきます。

【鉄矢会長】　　そうですね。

【山村委員】　　ですから、ちゃんと規則をつくって、事前に展示計画や出品目録など、資料を一式出してください、審査しますとか言っても、ぎりぎりまで出さなかったり、配布物を先につくっちゃったりとか。

【鉄矢会長】　　ありますね。

【山村委員】　　だから、運営は結構大変なんですよ。常勤で事務が３人いて、そのうちの１人が市民ギャラリー担当でやっていますけれども、判断に困る場合が結構たくさん。ですから、ここも一般に貸し出しをすると、多分、それだけの手間と、判断する人、即座に判断しないとだめな場合が結構多いです。特に、既成事実みたいな形で、「この前にいいと言った」とか、「あの人はいいと言った」とかということがありますから。それが１つあって、もう一つは、そうだといって貸し出しはしませんというふうにやっちゃうと、今度はがらがらになっちゃうというか、施設の無駄じゃないかということを言われる心配はあります。その境界線上でどうするかということは、ちゃんと人員の問題も考えながらやったほうがいいですよね。

【事務局（吉川）】　　だから、最初の運営はやっぱり一歩なので、ある程度厳し目なルールを考えていったほうがいいのかなと思います。先ほど鉄矢先生がおっしゃったように、やってみたけどうまく現状と合ってないよとなったら、また運協で議論して変えてみよう

とか。

【鉄矢会長】　　だから、やっぱり最初は絞り気味で始めるという、大きく開いたものを後で絞るのは、この場合は難しいだろうということですね。

【事務局（吉川）】　　難しいです。

【河合委員】　　ちょっと質問していいですか。私もわからなくて質問しているのですけれども、そもそも論として、この多目的ホールができるというか、講義室ができるということは、ここの施設が広がることですよね。先ほど、通常は開館中にイベントだと１０名程度だというキャパシティーを聞きました。そうすると、もっと、ここのはけの森美術館に多くの方に来ていただけたらいいなと思っているんです。自然がいっぱいだし、中はきれいだし、広げるなら、多目的ホールというものを使えば広がっていくわけです。知名度が上がるわけですから。だから、その辺を、どの辺にポイントを置くかというのは、この多目的ホールをつくっていく上での大切なところだと思うんです。だから、ここの美術館を広げていくというのなら、やっぱりそこのホールも使い勝手をよくしないと、このよさを見てもらえない。逆に絞れば、限られた活動しかできなくなる。先ほどおっしゃられたように、人のことも出てくる。そういう意味では、どういう規模のものを想定しておくかということが前提になるのではないかなと思うんです。今、そもそも論が、どこにポイントを置いて、このホールを考えていくのか。

【鉄矢会長】　　このスペースは基本的に美術館の教育普及活動、博物館法にのっとった美術館の教育普及活動をやるスペースだということで、ただし人的配置は限界があると、その中で回す分量のものでしかできないという話ですね。

【荒木学芸員】　　まずは美術館の教育普及、ワークショップなどの美術館の主催事業に使用するというのが、第１、その他、休館期間での資料調査などに利用する作業スペースとしても使うというのが第２。それでもかなりの、空く日が出るということで、そこを貸し出しに使うとなんですけれども、部屋ができることによって、まず我々のほうでどれぐらい活用するのか、実際、ワークショップなどのイベントの回数を増やしていけるのか、そこも見据えながらじゃないと、貸し出しのほうもどこまで拡張できるかまではまだわからない。

【山村委員】　　今のところ、大体の概算でいいんですけれども、美術館主催のワークショップ、多目的講義室を使う年間の回数と日数の計画というか、年間どれぐらいを考えていらっしゃいますか。

【神津学芸員】　今までの実績でいくと、各展覧会ごとに２回から３回のワークショップ、講演会等があって、それが大体年４回の展示なので最高で１２回ぐらいあるのと、あとは休館中に１回から２回なので１５回ぐらいのワークショップというか、そういうイベントがあって、それ以外に鑑賞教室ですとか、中学校の職場体験受け入れとか、そういったものも含まれてきて、それに関しては日にちも期間もばらばらで、その年によるという感じなんですけれども、今までの回数が、大体３０日間ぐらいだとすると、倍ぐらいにはなるのかなと思っています……。

【山村委員】　ということは、大体６０日ぐらい。

【荒木学芸員】　今のところそれが、今の人員での限度だと。

【山村委員】　６０日は年間使えるということですね。

【荒木学芸員】　いろいろな準備日、予備日、休館中作業なども含めてです。こちらの資料にも書きましたけれども、休館日や休館期間の外部事業を受け入れるかどうかということでも、またちょっと変わってくると思います。

資料、２ページ目の上のほうです。

【神津学芸員】　やればやるほど、この人員的な体制がきつくなっていくというような状況では、そんなにたくさんできないですし、それが変われば、例えば毎週土曜日にやるというようなこともできるかもしれない。

【鉄矢会長】　さっき河合委員がおっしゃったように、広くなるんですよね。スペースが広がるんですよね。でも人員は変わらないんですよねというのは、それがすごく酷なような気が……。

【村澤委員】　その６０日の中には、市立小中学校の作品展示とかも入っているんですか。これは除いて。

【荒木学芸員】　いえ。今はそういうことはしてないです。

【村澤委員】　前は、今イトーヨーカドーがあるあたりに公会堂があって、あそこでやっていましたよね。

【神津学芸員】　やっていましたね。あとは学校の中でやっていたり、いろいろあるんですけれども。

【事務局（吉川）】　この前の猫展を見た後、南小の中で展示なんかをやっていたので、例えばこんなところから……。

【荒木学芸員】　鑑賞教室からの発展ということはあり得ます。

【事務局（吉川）】　　そんなのができるところでやれれば、ちょっと楽しいのではないかと思います。

【鉄矢会長】　　市主催になるから面倒くさいんですけれども、美術館と共催というのはできないんですか。そういうふうに美術館と共催という、美術館のハンドリングで市とやると、市と共催って、いろいろなものが共催になって、いろいろなエネルギーが来て、共催でやれよという話になってくると、違うものもどうしても来ちゃうんですけれども、美術館と共催というふうに、何か……。

【事務局（吉川）】　　今ちょっと考えているのは、芸術文化振興計画の推進事業と美術館と共催で何かやれないかなというようなことは考えているんです。ただ、どちらも当課の予算なので、共催といえば共催だけどもというような感じですか。

【鉄矢会長】　　そのぐらいの小さなルールがあれば、まずは共催のものまでという、主催と共催のものまでといっていて、それがどうも市共催は学芸大もいろいろなことで市共催をいただいているので、そうすると、いろいろなものがとれるというのを知っている。市の共催は、いろいろなルートを使うと、いろいろな人が、強い人からいくと強くいっちゃうので。

【事務局（吉川）】　　共催という場合は、どちらも予算を出さなくちゃいけないんです。市の後援という場合は、うちの市は名前を貸すだけで。

【鉄矢会長】　　ああ、そうですね。うちは後援ですね、済みません。

【事務局（吉川）】　　お金は出してないです。

【鉄矢会長】　　後援がとりやすい。

【事務局（吉川）】　　後援はちょっと厳しいかなと。

【鉄矢会長】　　だから、そういうときに美術館後援があるといいと思うんですよ。はけの森美術館が後援しますという、それは、はけの森美術館がお墨つきを出すわけです。ほかの人がやってもいいと。アートフル・アクションでもいいし、何よりはけの森美術館が後援しますとか、小学校のある先生の展覧会、ある先生の図工とか何かで、美術館に刺激を受けてやらせました、ガラス絵ですといったときに、美術館が後援をすればいいですね。

【事務局（吉川）】　　後援だとちょっと難しい……。

【鉄矢会長】　　美術館という課がないんですもんね。

【鈴木委員】　　要するに市の施設……。

【事務局（吉川）】　　市の後援になっちゃうので。

【鉄矢会長】　　市の後援になるよね。市の後援はすごくとりやすいというか。

【事務局（吉川）】　　だから、美術館と逆に共催という形で、多少美術館もお金を出すけど、向こうもお金を出すというような形で。

【荒木学芸員】　　共催という場合だと、本来は会場代として払ってもらうお金の分を美術館が負担して相殺する、という方法があります。

【事務局（吉川）】　　そういう共催だったらあり得るかなという感じがします。

【鉄矢会長】　　そうするとハードル高くて市民からはそんなに……、市民に広げないという意味での話じゃないですよ、すごく今のまずい表現だな。ハードルを高くしたいわけじゃなくて、でも美術館、こういうキャラクターをつくっていきたいと思っている、自分たちの美術館を、新しく増えたそのキャラクターづくりに協力するんだったらいいよという話で。

【村澤委員】　　美術館主導でやっていくということ。

【鉄矢会長】　　そうですね。

【上田委員】　　今までの経緯というようなのを読んできて、根本的に人が足りないというふうに聞いていたような気がするんですが、先ほどおっしゃった場所が増える、イベントが増えるということで、そこは大丈夫なんですか。今までの流れだと、フィルターを設ける、ハードルを高くするなり低くするなりで、でも最終的には個別案件ごとに館長や運営協議会で討議することが必要であるというようなことになるじゃないですか。そんなにしょっちゅう協議すべきことが来て、従事していらっしゃる方は大丈夫なんでしょうか。時間があるのかというか、それを検討するようなことはできるんでしょうか。

【鈴木委員】　　難しいところはあるでしょうね、やっぱり。ここが新しくできて、どういった活用をしていくかというようなことで、当然、美術館としての機能は広がっていくわけですから、それに見合う体制を構築する必要がでてくるとは思いますが、今の小金井市の状況などを勘案していく中で、１００％人と金が確保されるということにはならないと思います。それで、現状のスタッフ体制で、どの程度幅を広げていくことができるかというところだと思います。

【山村委員】　　ということは、事業を広げるんじゃなくて……。

【事務局（吉川）】　　充実ですね。

【山村委員】　　事業の数は増やさないで、場所の使い勝手をよくするという考え方で……。

【鈴木委員】　　取っかかりの部分ではそうなってくると思います。

【山村委員】　　年間６０日というのは多いんじゃないの。

【荒木学芸員】　　いろいろな準備のために押さえておくのも含めてです。それで、館が押さえるのがそれぐらいだろうと考えています。

【鉄矢会長】　　それだったらいいけれども、やっぱりその日に来なきゃいけないとか、かぎ貸してやっといてじゃないですもんね。

【神津学芸員】　　施設の管理の状況というか、どういうふうに管理するほうがいいのか、従来の入館受付とは別個のラインでもう１本必要になってくるので、この多目的ルームだけ使う方の動線とか、建物の管理はどういうふうにすればいいのかとかいうことは、受付のやり方も含めてですけれども、不安な点ではあります。今は、受付は下の１カ所で、人員もローテーションで、くるくる交代してやっているので、その箇所が増えると考えたときに、どんなふうに配置する、人数を決めたりするのか、運営体制としてどうまわっていくのかという点が不安です。

【村澤委員】　　その場合には、この可とするものというのは可能なんですか。今はやっていないことですよね。これも難しいという感じですか。

【神津学芸員】　　難しい。

【鈴木委員】　　ある程度の基準というんですかね、そういったものを整備する必要が当然出てくると思うんですよね。

【鉄矢会長】　　極端にいうと、可と想定されるものというのは、これが超過勤務手当の扱いを含めて、ちゃんと用意してくれるとかいう話かもしれないですよね。ただの場所代じゃなくてね。超勤手当もくっつけて、違う業務をやるんだから、違う業務をやる場合は、今の業務以外の……、そんなことが可能か知らず発言しているんですけれども、でも、そういう意味ですよね、増えるんだったら。今ので、もうぱんぱん、さっきおっしゃったように、前から、今でも、もう人員は結構ぱんぱんで、３人になったり２人になったりしながら、それも全部非常勤の方で動いていて、ぱんぱんだよと。場所が少し楽になるということは、もっと動けることになっちゃって、さらにぱんぱんになる可能性は高いと。

【神津学芸員】　　ほんとうに不特定多数の市民の方が使う場として、市民の安全をどう守って、守る最低の人数、その人数はどれぐらいなのかとか、そうしたことも目を届かせなきゃいけない場所が単純に増えるということなので、その目標というか、目指すところが全然見えていない。

【山村委員】　　もし多目的ルームを年間６０日以上運営して、なおかつ施設貸しもするということであれば、ここ専門の人が１人必要ですね。たとえ非常勤であっても。

【事務局（山田）】　　１人ということは、２人ということでしょうか、結局。休みの対応とか。

【山村委員】　　まあ、そうですね。ただ、それはなかなか難しいんじゃないかな。１人は専任にして、学芸員と協力しながら、その人が休むときに頼むとかという連携しかないでしょうね。

【事務局（吉川）】　　ただ、毎日開放するということは多分ないと思うので。

【荒木学芸員】　　予約とか、審議とか、そういった業務はありますから。

【山村委員】　　まあ、もちろんほかにも兼務するだろうけど、でも６０日というと１週間に１回ぐらいのペースですよね。

【鉄矢会長】　　うん。

【荒木学芸員】　　多少、むらはあるけど、それぐらい……。

【山村委員】　　割れば。

【荒木学芸員】　　ええ。

【山村委員】　　片手間にできる仕事じゃないと思います。

【事務局（吉川）】　　ただ、場所貸しをすることが主の目的ではないので、貸すという場合は、どういうふうにやるかなという話を今回……。

【鉄矢会長】　　でも、市民側からすると、市の持っているスペースがあいているだろうという目ですよね。いいスペースがあいていて、工作とか何かできる場所がすごくいい場所で、私は教育に使いたいんだという市民がいたら、何であけないの、美術館は教育普及活動を重視しているんでしょうというので、あけないと言っていると、議員さん、こう言っていますよという人が出てくるじゃない。その視点が、やっぱり今の難しさですね。

【山村委員】　　そうですね。だから、貸さないんだったら、主催事業とか共催事業をたくさんもっとやらないと納得しないでしょう。

【鉄矢会長】　　それにはスタッフがいると。でも、そのスタッフもあれですよね、これは何とか、このままじゃだめだからといって、やっと予算をとって、建築を直して、いや、建築を直したら、いや、実はと。これ、後出しみたいに人員が必要なんだよというのは、なかなかすぐには言えないですよ。

【事務局（吉川）】　　それは改築の予算をとるときに、前の副市長にすごく言われたんで

す。こんな講座やりますと言ったら、今度は、人がいるだろうって、しっかり言われました。いや、一応、これは活用の理想ですからと言って、とにかく建築工事費だけとったんですけれども、まあ、想定されているような人員の問題はセットで出てきますよね。

【鉄矢会長】　　市としても、何となく想定はあるんだ。

【事務局（吉川）】　　想定はあるというか、こんなにいろいろやったら、人が今度はいるだろうと、人件費は出さないぞ的なことは言われましたけれども。事業が増えれば人もかかるということは、当然不安材料としてはというのはありますよね。

【鉄矢会長】　　議論が落ちつくところはないんですけれども。

【山村委員】　　学芸大学で､市と協力して公開ワークショップを学生を使ってやるとか、何かできないんですか。

【鉄矢会長】　　学芸大は、ある程度、大学院レベルで出すというのは可能性はないわけじゃないと思う。そのときに、博物館実習並の何かを１回受けた人間がここに来て、そういう経験だよとか、何かしてくれることとか、あと、やっぱり一番は、アルバイトするよりはこっち来たほうがいいようにしてあげないと、今、学生さんたちもそんなに裕福ではない中で、アルバイトに行っちゃっているんですね。

【山村委員】　　じゃあ、やっぱり人件費と同じで。

【鉄矢会長】　　ただ、人件費は安いですけれどもね。

【山村委員】　　といってもね、１時間100円というわけにはいかないものね。

【鉄矢会長】　　ただ、結局、あとは美術館に行きたいという人もいますので。

【山村委員】　　学芸大学が市と契約書を取り交わして、学芸大学のほうで年間６０日使えますよと、それは一般の人もオープンな講座とか、シンポジウムとか、ワークショップですよというふうにやればできなくはない。

【鉄矢会長】　　できなくはないですね。学芸大学の公開講座、美術系公開講座をここでやりますという話であれば。学芸大学が公開講座をやると、美術の講座をここでやると。

【事務局（吉川）】　　その学会、研究会などの会場使用というのは、そんな感じに近いのかなと思いますけど。ある意味、うちの主催、共催、研究のためのという形で、狭めちゃっていいのかなという気がするんですけど、研究というと、これまた研究がいろいろ出てくると。

【村澤委員】　　この前いただいた資料の中を見ていたら、提言か何かの中に、農工大の繊維博物館か何かの例が出ていたんですけれども、そういうところとかも声をかけてみる

とか。

【鉄矢会長】　　ほんとうに友の会、ここのファンができて、卒業していったようなことで、農工大はそうですね、長くファンがいて、農工大の中で学芸員というか、友の会で頑張っていた人たちが、何年かすると卒業という格好でサークルをつくったりして、繊維博物館の近くで染物をやったり、いろいろなそういうサークルがある。繊維博物館の公認、そういう人たちがやっぱり博物館をバックアップしているという体制があるというのはいいなと思います。

まず、先生からお話あったように、美術館としての主催事業がどのぐらいのバランスで、どのぐらいのボリュームで、やはり人員がもともと厳しいから、開館日も縮小している。縮小しているというか、適切な大きさにしているという形の中で、実際、どのぐらいの稼働がその稼働に対して、もっとあけろというんだったら、もっと人員つけろという話ですよね。人員つけられないでもっと稼働しろといったときに、初めて、じゃあ、どういうルートがあるのといったときに、近隣大学であるとかというのが、協力体制できるかとかいうような模索を始めるとか。学芸大学は、大学もありますし、ＮＰＯの子ども未来研究所というのもできていますので、そういうところを使っていただくというのもないわけではないと思う。

【鈴木委員】　　来年度の予算要求の中では、新しく多目的の部屋ができたことを前提とした要求をするわけですよね。ですので、次回の運協あたりに、現状と新しくなったときの比較、予算的な部分も含めて、比較した表をまとめて資料として委員の皆さんに見ていただくということも必要なのかなと思います。どれだけ経費が、予算が重なって、費用対効果というんですかね、そういったものをどの程度見込めるのかというのも、検討していただく必要があるのかなとは思っています。

【山村委員】　　加えて人員の問題ですね。そこでどうやるのか。

【上田委員】　　それは、人員の問題を度外視して考えると、先ほど鉄矢先生がおっしゃっていた、市民としてあいているスペースがあるのに使わせてくれてないのは何事だという問題なんですけれども、ちょっと高飛車に出ちゃっても価値があるんじゃないかなと思います。はけの森美術館の多目的ルームで開催するような素敵なイベントなのよというような、それはやっぱり公民館とか児童館とで役割を差別化していただいて、少しハイソというか、もうちょっと格が高いのよみたいに出てしまっても、みんな納得するんじゃないかなと思います。

―― 了 ――